

松江市出雲玉作資料館

# 資料館だより

松江市出雲玉作資料館発行

〒699-0201 松江市玉湯町玉造 99-3

開館時間 9時～17時（入館は16：30まで）

休館日；月曜日・休日の翌日 TEL・FAX（0852）62-1040

## ■令和4年度、昨年度と同じメンバーでスタートしました。よろしくお願ひします。

なかなかコロナウイルス感染の収束が見通せませんが、愚直に感染防止対策に努めるしかないです。マスク着用・手指消毒・検温・密をさけて、みなさまのご来館をお待ちしております。

## ■春季ミニ企画展「雅物と雑器の布志名焼」～永保山窯・昇雲窯・立平窯～

4月12日（火）～5月15日（日） 開催（2階展示室）

明治から昭和初期に操業していた永保山窯、昇雲窯、立平窯の作品を約60点展示し布志名焼の知られざる歴史の変遷を辿ります。



永保山窯



昇雲窯



立平窯

## ■今月の一品 作品名：楽山焼 盃 作者：長岡空味（住右衛門）（1874～1960）

製作年代 1917年頃



今回は楽山焼の盃を紹介します。

この盃は山陰合同銀行の前身である簸川銀行の操業20周年を祝して作られた記念品です。箱の表書きには「株式会社簸川銀行」と「楽山空味」

の朱印が残っており、ほぼ正方形の木箱のなかに、形や絵付けが異なる小振りの盃が5点ほど納められています。簸川銀行は明治30年に設立され、その後、何度も他行との合併を繰り返し、昭和16年に現在の山陰合同銀行となりました。

明治維新になり茶の湯が衰退し、松江藩からの庇護をなくしてからは楽山焼も布志名焼同様に大打撃を受け、土産物や日曜品など細々と作る不遇な時代が続きました。しかし、大正6年、松江で開催された「不味公百年祭」に公開された茶器に刺激を受けた空味が、伊羅保茶碗など楽山の伝統的な器を中心とした茶陶への道を再興し、現在に至っています。

**\*受付の前に展示しています。**

■4月のロビー展

無料

出雲玉作資料館友の会主催

# 涌田 毅 油絵展 & ジオラマ展

4月2日(土) ~ 4月30日(土)



風景画をパソコンの写真集を見て描いています。好みは少し幻想的な夕焼け、紅葉、滝や湖の景色です。絵としては初心者ですが挑戦しています。始めて1年ほどですが約40点描きました。この度は15点を展示しています。額は自作です。併せてジオラマも展示しています。(涌田)



玉湯川まがたま橋付近風景ジオラマ



松江城ジオラマ

## ■【休館日のお知らせ】

4/4(月) 4/11(月) 4/18(月) 4/25(月)

■ 恒例の“花吹雪たまゆら茶会”は新型コロナ感染拡大に伴い中止とさせていただきます。

★5月ロビー展は【栗原哲朗・春の山野草展】です。